

村上市DX本部会議
—みなさんと考え続けたい問い—

2025年4月28日
株式会社コパイロット 米山知宏

- 私の喉の調子が悪いため、今日は資料ベースの共有とさせていただきます
 - 各自お手元のデータでお読みいただければ幸いです
 - 余談ですが、Amazonの会議は資料の黙読から始まるようです
- 今日のDX本部会議でお伝えしたいことは、今年度新たにDXに取り組んでいくにあたって、「向かっていきたい方向性」と「向かっていくための第一歩」をみなさんの中で見つけていただきたいということです
- この資料では、そのための問いを3つ用意しましたので、今日のDX本部会議の場でも少しご検討いただきつつ、そしてそれぞれの部署に戻られたあとも部署の皆さんと議論していただければと思います
 - 1：DXを通じて、どんな村上にしていきたいですか？
 - 2：それを実現しようとする際、何が障壁になりますか？
 - 3：その障壁を私たちはどうしたら乗り越えられるでしょうか？
- 昨年度最後のDX本部会議でのディスカッションでもあったように、DXを大きく捉えすぎる必要はありません
 - まずは、みなさんが日々業務をする中で感じる「業務に対するちょっとした違和感」や「こういうことができたらいいのにな」という小さな要望」を課内で共有するところから始めてみましょう
- その一言が、5年後10年後30年後の村上に必ずつながっていくのではないかと思います

1

DXを通じて、どんな村上にしていきたいですか？

2

それを実現しようとする際、何が障壁になりますか？

3

その障壁を私たちはどうしたら乗り越えられるでしょうか？

DXを通じて、
どんな村上にしていきたいですか？

「スマートむらかみ」の実現

目指すべき姿

- ✓ 誰もがメリットを享受できるデジタル化
- ✓ 市民の利便性・快適性向上
- ✓ 安心・安全な暮らしの実現

取組の考え方

- 生産性の向上
- 職員の働き方改革
- 行政サービスの抜本的見直し
- 前例主義からの脱却
- ICTの積極的活用
- 地域デジタル化の推進

スマートむらかみを具体化した全体像（米山私案）

米山としては、
このように捉えています

実現したい
状態

住民・地域

- 笑顔あふれる暖かな関係
- しなやかで力強い地域

住民と行政の関係

- 村上の素晴らしさを未来に繋ぎ、共にまちを作っていくパートナー

行政経営

- 持続可能な経営状態に

取り組む
こと

利用者の立場に立ったサービス提供

- 利用者起点でサービスをデザイン
- あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できるサービス・環境整備

職員の立場に立った職場環境デザイン

- 業務のやり方・仕事の進め方・コミュニケーションのあり方を職員視点でデザイン
- 一度改善して終わりではなく、「改善し続ける」

村上市役所
が大切に
したいこと

市役所全員で、組織をアップデートし続ける —働きやすい環境・組織文化は、自分たち自身で作る—

- 市民に対してより良いサービスを提供するためには、職員の力や思いが発揮されやすい環境づくりが不可欠
- 立場に関係なく、多様な意見の尊重（活発な議論をしやすい環境）
- 暗黙の前提となっている慣習や価値観を問い直す
- 自ら体験・経験することを大切に
- 経験を通じて、みんなで学び続ける＆経験・知見をみんなで共有する

【問い】 DXを通じて、どんな村上にしていきたいですか？

- みなさんが担当されている業務は、5年後、10年後、30年後に、何がどのような状態になっているとよいでしょうか？
 - 市民の様子は？地域の様子は？市役所としては？
- そのために、みなさんが担当されている業務で、今年度取り組んでみたいこと、チャレンジしてみたいことはなんでしょうか？

それを実現しようとする際、
何が障壁になりますか？

それを実現しようとする際、何が障壁になりますか？

DXに取り組むうえで
みなさんが感じている障壁
はありますか？

【問い】 下記はChatGPTに列挙してもらった「DXを進める際の障壁」ですが、
他に、みなさんが感じている障壁はありますか？

通常業務が手一杯で
時間が取れない

住民向けサービス優先で
職員向けツールが後回し

「失敗できない」組織文化への
プレッシャー

成功事例の可視化不足

その障壁を
私たちはどうしたら
乗り越えられるでしょうか？

その障壁を私たちはどうしたら乗り越えられるでしょうか？

その障壁を乗り越えるために、何が必要でしょうか？

【問い】 その障壁を私たちはどうしたら乗り越えられるでしょうか？

- みなさんが障壁・課題だと感じているものを乗り越えていくために、何が必要でしょうか？
- 乗り越えるための一歩目として、何をできるとよいでしょうか？

ハードルを下げる

まずは、業務のやり方に対する違和感や、こうできたらいいなという願望の共有から（実現可能性は気にしない）

小さな成果でも共有し、称え合う

素晴らしい取り組みを行っている人が庁内にたくさんいる

対話の機会を小まめに作っていくこと
（LOGOチャットでも、5分10分の会議でもよい）

みなさんの今年度の一歩が
5年後、10年後、30年後の村上に
つながっていく